

## V 教育研究計画

### 1 教育研究のテーマ

#### 基礎・基本の定着を図る授業の工夫・創造

～教科の特性を活かした振り返り活動の充実を目指して～

#### (1) 目標と現状

##### 【学校教育目標】

- ・豊かな心と表現力を養い、仲間と共に社会貢献できる、たくましい生徒の育成 自立・尊重・向上

##### 【昨年度の成果】

- ・平日の学習時間確保に向け、昨年に引き続き全学年で第60ノートによる自主学習を継続。  
→平日の学習時間を30分以上確保できた生徒は、全校で82%となっている。
- ・ICT機器を活用した研究授業等で、授業改善に向けた研修を重ね、生徒自らがChromeBookを活用し、思考を整理させたりまとめたりする学習が定着した。  
→生徒アンケートで89%がICT機器の活用に対して肯定的回答をしている。

##### 【昨年度の課題】

- ・生徒は、考えをまとめたり分からないことを調べたりするときに、パソコンやタブレットを使っており、アンケートの肯定的評価は全体で88%であるが、それが直接的な学力向上に結び付いていない。  
→活用する時間は確保できたが、思考の深まりをアウトプットする場面の確保が不十分である。どのような形でアウトプットすることが「各種テストの点数アップ」につながるのかを研究していく必要がある。  
→ICT機器の活用に対する教職員アンケートの肯定的評価は全体で70%と低迷しており、教員側が活用の必要性をあまり感じておらず、特に授業内で生徒に活用させる場面設定の難しさが読みとれる。
- ・学校評価の指標とした、「実力テスト」の平均点が伸びない。  
→学習時間が0時間～1時間未満の生徒が47%と約半数を占め、それゆえ学力が定着しづらく、反復学習や誤答をもとにした基礎学力を定着させるための学習や記述問題への取組が不十分である様子が読み取れる。

#### (2) テーマ設定の理由

前年度から取り組んできたクロームブック等を積極的に活用した授業づくりを土台とし、「学力向上」に焦点化した授業改善を通して「基礎学力の向上」を目指すこととした。

### 2 主な研究教科及び領域名

全教科・全領域

### 3 研究仮説

基礎学力の定着の取組において、各教科の定期試験問題を積極的に活用し、生徒へのフィードバックとして「テスト直し活動」を行う中で、解決への手がかりや到達目標、正答を導くための説明や解決のための方法や着眼点を整理するなど活動を通して「思考力」を育成し、自分の考えやまとめたことをICT機器等で表現させれば、「基礎学力」を高めることができるであろう。

## 【研究概要】

(1) 学力向上を意識した授業改善 ⇒基礎学力の向上を目指す

### ①定期試験問題の積極的な活用

- ・定期試験ごとに「テスト直し」を全教科で生徒に実施し、レポートやドキュメントで可視化する。
- ・教科ごとに「PDCA サイクルシート」を作成することで教員間の連携を図り、可視化する。

### ②ミライシート等のドリル教材に取り組む時間を確保し、基礎学力の定着を支援。

(2) 家庭学習の充実 ⇒基礎学力の向上を目指す

### ①教科での工夫：家庭学習を活かした授業づくり

- ・定期試験ごとに「テスト直し」を全教科で生徒に実施し、レポートやドキュメントで可視化。

### ②全学年の取組：実態に応じた「第60ノート」の活用と点検 ※個の特性にも配慮する。

### ③平日の家庭学習時間の増加；30分未満を10%以下にする

### ④効果的な学習方法の定着

(3) 学習分析事業の活用

### ①学力向上に向けて放課後等での学力補充での学力補充や学び方の指導・支援のための体制をつくる。

- ・学力向上部など組織的な学力補充体制
- ・学力補充担当教員を中心とした組織的な対応と丁寧な家庭との連携から、自己肯定感の向上を目指す。

## 【全体研修】

(1) 講師招聘による研修 (草原和博先生 広島大学大学院 大学院人間社会科学研究科 教授)

### ① 理論研修 (4月)・まとめの研修 (2月)

### ② 研究授業・協議会 (1学期1回・自主公開研究会1回)

### ③ 授業参観：参観と講評 (全教職員に実施)

※ 回数をわけ、対象者を絞って実施

○課題発見・解決学習の単元で、ICT機器の活用を土台とした研究授業を全員実施する。

○各教科での学力向上検討会の実施 (学期に1度程度)

10月、1月の生徒アンケートや、定期試験、実力テスト、学習分析事業 (NRT・Hyper-QU)、全国学力・学習状況調査などの結果を踏まえ、各教科の教員で学力面についての反省や検討を行う。

## 4 達成目標

(1) 「基礎的・基本的な学力」の定着

- ・標準学力調査正答率における、校内平均と全国平均との比率を1 (100%) 以上にする。
- ・実力テスト等における、校内平均と全国平均との比率を1 (100%) 以上にする。

(2) 教科ごとの「PDCA サイクルシート」を意識した授業改善 (昨年同様)

- ・生徒・教職員アンケート「振り返り」に係る設問→肯定的回答を80%以上
- ・生徒・教職員アンケート「家庭学習」に係る設問→肯定的回答を80%以上

(3) 家庭学習の時間と質の充実

- ・生徒・教職員アンケート「振り返り」に係る設問→肯定的回答を80%以上
- ・生徒・教職員アンケート「家庭学習」に係る設問→肯定的回答を80%以上

5 年間スケジュール (昨年度)

期 日	教科・領域等	授業者	研 修 内 容	指 導 者
4月26日	全教科・全領域		今年度の取り組みの確認と各教科の目標設定	
5月26日	国語	安保	教科研修B	指導主事
6月16日	理科	岡本	教科研修B	指導主事
6月21日	英語	陽山	教科研修B	指導主事
6月26日	保健体育	新谷	教科研修B	指導主事
7月12日	社会	森本	全体研修A	指導主事
9月15日	数学	福澤	教科研修B (中堅研修)	指導主事
9月22日	保健体育	舛金	教科研修B	指導主事
9月29日	音楽	枅宗	教科研修B	指導主事
10月18日	理科	藤本	教科研修B	指導主事
10月23日	国語	文字	教科研修B	指導主事
11月6日	技術	前田	全体研修A	指導主事 大学教授
11月13日	国語	宇根崎	教科研修B (2年目研修)	指導主事
12月13日	英語	川崎	教科研修B	指導主事
1月12日	美術	村上	教科研修B	指導主事
1月15日	家庭	國重	教科研修B	指導主事
1月19日	社会	河野	教科研修B	指導主事
1月23日	英語	笠岡	全体研修A	指導主事 大学教授

※ 一人一指導案の原則で、全員が単元構想シートを作成し、研究授業を実施する。

指導案はフル指導案とする。

【研究授業・協議会の体制】

A 全員での研修：教育研究に関わる全体研修・年間3回

B 教科研修（指定研修含む）：中堅研修（1）2年目研修（1）

各教科担当者が参加